

令和3年大船渡市教育委員会第10回定例会会議録

1. 日 時

令和3年10月22日（金） 午後1時30分から午後2時5分まで

2. 場 所

大船渡市役所 教育委員会会議室

3. 出席委員の氏名

教 育 長	小 松 伸 也
教育長職務代理者	柏 崎 正 明
委 員	村 谷 志 保
委 員	清 水 恵 子

4. 説明等のため出席した職員

教育次長兼教育総務課長	遠 藤 和 枝
学 校 教 育 課 長	佐 藤 真
生 涯 学 習 課 長	山 岸 健悦郎

5. 議 事

議案第1号 大船渡市教育委員会訓令で定める申請書等の押印の特例に関する規程の制定について

議案第2号 大船渡市指定天然記念物老杉の現状変更の許可に関し議決を求めることについて

6. 報告事項

(教育長)

① 大船渡市教育委員会委員の議席の指定について

(教育総務課長)

① 令和3年度大船渡市文化財保護事業について

(学校教育課長)

① 第4回市内小・中学校長会議の開催結果について

(生涯学習課長)

① 令和3年度青少年体験学習事業（英語スクール）「第2回英語体験教室」の開催について

7. 会議の概要

(教育長)

- ・令和3年大船渡市教育委員会第10回定例会の開会を宣言する。
- ・委員の議席を定める。
- ・10月1日付けで新しく就任された清水委員から、一言あいさつをお願いする。

(教育委員)

- ・わからないことが多いので、いろいろ勉強しながらいきたい。よろしくお願ひしたい。
- (教育長)
- ・教育委員、事務局職員について、事務局に紹介を求める。
- (教育次長)
- ・はじめに、教育長、教育委員を紹介する。
 - ・次に、定例会に出席する事務局職員を紹介する。
- (教育長)
- ・令和3年第9回定例会の会議録について、質問、意見を求めた結果、委員の承認を得る。
 - ・諸報告事項について、事務局等の説明を求める。
- (教育総務課長)
- ・別紙資料等により報告する。
- (学校教育課長)
- ・別添資料等により報告する。
- (生涯学習課長)
- ・別添資料等により報告する。
- (教育長)
- ・追加報告を求める。
 - ・追加報告がないことを確認後、報告事項についての質問、意見を求める。
- (教育長職務代理者)
- ・長谷寺の収蔵庫にある県指定有形文化財は、一般公開等をしているのか。
- (教育次長)
- ・長谷寺が管理しているため詳細は把握していないが、開帳する日が決まっており、年に何度か地元の方に公開している。
- (教育長職務代理者)
- ・県指定の文化財である。市民の方々にも広く周知するためにも観る機会があつてほしい。
- (教育次長)
- ・今年度、県の博物館で展示をしたが、市内では機会がなかったため、長谷寺と相談しながら検討したい。
- (教育長職務代理者)
- ・2学期からタブレットを活用した授業が本格的にスタートした。今回の授業交流会では無理かと思うが、来年度以降は、ぜひ子ども達がタブレットを活用している授業を観たい。
- (学校教育課長)
- ・学校によって活用状況に差がある。授業交流会では盛小学校が算数中心、大船渡小学校が道徳中心なので、タブレットを活用する可能性はある。情報が入り次第、伝えたい。
- (教育委員)
- ・全国学力・学習状況調査結果に衝撃を受けた。
 - ・夏前に6年生の算数の授業を参観した。ノートに何も書かず、全く理解していない様子の児童が数人いた。授業以外での指導など、理解できていない子への指導はどのように行っているのか。

(学校教育課長)

- ・今年度の全国学力・学習状況調査の結果は、なかなか厳しい結果だと認識している。特に小学校の課題は中学校に持ち越されるため、根拠を持って授業に取り組んでいく必要がある。補習については、放課後にじっくり指導する時もあるし、小テスト等を重ねながら、朝学習や中休みにする時もある。
- ・特別支援学級の児童が親学級授業を受けることもある。もしかすると、そのような様子は他の学校でもあるかもしれない。
- ・教育研究所では、この結果を学校と共有し、来年度に向けて対策を検討している。

(教育長職務代理人)

- ・担任は、放課後に理解が進まない子ども達へ個別指導している。どの学級担任もなんとか理解してほしいと努力はしているが、指導する時間が十分とれない。

(教育長)

- ・特に算数・数学は、積み重ねである。九九が分からなければ、掛け算・割り算ができず、そのまま中学校に繋がっていくこともある。学年が上がるほど個人の能力差が出るため、個に対しての指導が必要となる。分からない子に対し、特別支援教育支援員を活用するなど、補助的について教える人が必要だろう。

(教育委員)

- ・アンケート調査で「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」との質問に対し、「どちらかといえば、そう思わない」「そう思わない」と回答している児童生徒がいるが、先生方はそう思っていない。
- ・児童生徒が「どちらかといえば、そう思わない」を選んだ理由がわかるものがあるのか。

(学校教育課長)

- ・回答のみで詳細な部分は把握していない。委員のご指摘の通り、中学校では20%以上の差がある。生徒と教師の認識がずれていれば、その差は学習の成果にも出てくるだろう。ただ、「どちらかといえば」という表現なので、捉え方に差があることも考えられる。
- ・自分から取り組んだと感じられないのは、もしかすると先生から説明や指導が多いのかもしれない。

(教育委員)

- ・頑張りたい子どもがいて、先生達もその子に手を伸ばしたいが対応がわからない場合のヒントがこういうところにあるのではないかと思う。
- ・教室に補助の先生がいて、レベル別に指導しているため、分からない子も授業を楽しく受けている。下の子を引き上げようとする取組は大切だが、平均点を上げるためには、レベルが上の子ども達への取組も必要になってくるのではないか。市では何か取り組んでいるのか。

(学校教育課長)

- ・日本の教育システムはレベルアップに照準を置いており、ボトムアップを大事にしている。いつの時代も上の子ども達への対応が課題となっていたが、ICTが導入されたことにより、上の子への対応も進んでくると考えている。
- ・教師の役割とICTで出来ることを細分化していけば、効率良く授業時間を使えるようになっていくだろう。今の教師1人対30人という体制で一斉に同じ問題を解こうとする所に課題が生じている。レベルの違う子ども達に対し、人数で補うか、方法で解

決するかという差はあるかと思う。

(教育委員)

- ・コロナ禍でなければタブレットは導入されなかったと思う。コロナ禍のため対面で授業を出来ない対策としての活用の他に、プラスアルファとして市は何を求めていくのかと思っていた。

(学校教育課長)

- ・GIGAスクール構想は元々あった。本来であれば3年後の予定だったが、コロナ禍により前倒しで整備された。
- ・ICTはあくまでもツールでしかなく、結局、教師の授業力が伴っていないといけない。教育委員会として応援していきたい。

(教育長)

- ・優秀な子ども達をどうやって伸ばしていくのか。加配等があり教員が多くいる学校では、算数・数学など習熟度別学習をやっているところもある。教員の数が多ければ、そのような対応も可能である。

(教育長職務代理人)

- ・小中学生の6年間のいじめの追跡調査によると「仲間はずれ、無視、陰口」を「された経験がある」9割、「した経験がある」9割とある。いじめはどの学校でも、どの子どもにも起こり得る。いじめは人間として、絶対に許されないんだという意識を一人一人の児童生徒に徹底していくことが大事だ。
- ・いじめがあった時には、学級担任が1人で抱え込まずに校長のリーダーシップの下、全教職員の協力体制で対応と指導にあたること、また、出来るだけ早期にその関係児童生徒の家庭訪問等を行い、保護者に事実関係をきちんと伝えて、今後の学校との連携について話し合っていくことが大事だと思う。
- ・どの学校でも努めていると思うが、子どもへの指導支援を行うとともに、保護者とも連携して、その信頼関係を培っていく、その上で対応していくことが、とても大事になってくる。

(学校教育課長)

- ・大事なのは、認知するだけでなく、解決していく過程において学校と家庭で協力しながら進めていくことだと考えている。まずは早期発見に努め、今回の通知も踏まえ、学校での取組を徹底していきたい。

(教育長職務代理人)

- ・今、コロナ禍により全国で小中学生の自殺等が増えている。決してそういうことがないように早い段階で対応にあたっていくことが大事である。

(学校教育課長)

- ・徹底していきたい。

(教育長)

- ・いじめという言葉が年代を問わず定着している。また、昔と違い、いじめの定義がなく、本人がいじめられましたと訴えるといじめと認知されるため、毎月行っている「いじめ調査」においても、結構な件数になっている。
- ・重大事態に繋がっていくいじめか、その場で指導して収まるいじめか、その見極めをきちんと行い、重大事態にならない指導の徹底をこれからも進めていく。

(教育長職務代理人)

- ・英語体験教室について、1回目に参加できなかった子ども達を対象に2回目を開催す

るのは、とても良い企画である。昨年度も人数が多く、参加出来ない子がいたので、すごく良いと思う。

(生涯学習課長)

- ・当初は1回のみでの予定だったが、昨年度の反省も踏まえ、今年度も人気が高かったため2回目を企画した。今後も講座の状況をみながら色々考えていきたい。

(教育長)

- ・同じ子どもが段階的に進んでいく形で、3回ぐらいの講座にしてもいいと思う。

(生涯学習課長)

- ・次年度以降の計画を検討する際に参考としたい。

(教育長)

- ・その他、質問、意見がないことを確認後、諸報告を終了する。

(教育長)

- ・開議を宣言する。
- ・日程第1、会期の決定について、会期を1日とする。
- ・日程第2、議案第1号について、説明を求める。

(学校教育課長)

- ・日程第2、議案第1号 大船渡市教育委員会訓令で定める申請書等の押印の特例に関する規程の制定について、説明する。

(教育長)

- ・議案第1号について、質問、意見を求める。

(教育長)

- ・病休等の申請書にも押印はいらないのか。教職員すべてということか。

(教育次長)

- ・はい。申請書に申請者の認印が不要となる。

(教育委員)

- ・出勤簿もなくなるのか。

(教育長)

- ・出勤簿はある。

(教育次長)

- ・出勤簿の回覧印は残るが、休みを取得する際の申請書への押印がなくなる。

(教育長)

- ・ほかに質問、意見がないことを確認後、議案第1号について諮る。
- ・全員異議がなく、議案第1号を原案どおり可決する。

(教育長)

- ・日程第3、議案第2号について、説明を求める。

(学校教育課長)

- ・日程第3、議案第2号 大船渡市指定天然記念物老杉の現状変更の許可に関し議決を求めることについて、説明する。

(教育長)

- ・議案第2号について、質問、意見を求める。

(教育委員)

- ・先日行ったが、坂のところを歩くと、板が外れそうな感じがした。今回はこの板を撤去するのか。

(教育次長)

- ・これを撤去し、プラスチックのチェーンを移動させる。通行止めにし、ここに入れな
いようにする予定である。

(教育委員)

- ・杉の周りが見えなくなる。杉の裏側まで見たくなると思う。

(教育長職務代理人)

- ・合併前の三陸町では、老杉がまるごと博物館の中に大きく位置づけられていた。老杉
の健康状態と外観に影響がでないように整備してほしい。

(教育長)

- ・老杉はかなり手当が必要な状況になっている。注意深く見守りながら、管理してい
きたい。

(教育長職務代理人)

- ・県外からの観光客は、ど根性ポプラと一緒に老杉を見に行く。今、話題に出たことを
何かに書いておくと観光客も安心して見ることが出来るだろう。

(教育次長)

- ・観光部局と連携しながら、検討していきたい。

(教育長)

- ・樹木医からは下から眺めるように言われている。見に行った方が無理せず見られる状
態になってほしい。

(教育長)

- ・質問、意見がないことを確認後、議案第2号について諮る。
- ・全員異議がなく、議案第2号を原案どおり可決する。

(教育長)

- ・その他、質問・意見、追加議案がないことを確認後、議案審議を終了する。
- ・令和3年大船渡市教育委員会第10回定例会の閉会を宣言する。

会議録作成者 教育長 小松伸也

会議録署名者 教育長

教育長職務代理人

委員

委員